

# 主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19089	橋梁耐震化補強事業	室名	維持修繕室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	会計	01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	款	08:土木費
	施策の方向	03:道路の安全性と防災機能の向上	項	02:道路橋梁費
	戦略プロジェクト	01:まち守りプロジェクト	目	07:橋梁整備費
事業予定期間	H 16 ~ H - 年度	主な根拠法令要綱等	道路法・道路構造令・道路橋示方書	

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、15m以上の市が管理する橋梁を対象に耐震補強を行い、市民の安心・安全の確保に努めるものである。
概要	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、平成16年から緊急輸送道路、跨線橋、跨道橋の橋梁を対象に耐震補強工事を進めてきた。今後は東海、東南海及び南海地震が発生すると予測されていることから、平成23年度に策定した橋梁耐震化補強事業計画に基づき整備を進め、市民の安心・安全を確保する。	

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	計画額	・耐震設計 三寺橋・川合椋川橋	・耐震補強工事 川合椋川橋	
		事業費	20,000千円	53,000千円
		国庫支出金	11,000千円	29,150千円
		県支出金		
		地方債		
		その他		
		一般財源	9,000千円	23,850千円
	予算額	事業費	7,024千円	30,000千円
		国庫支出金	3,863千円	16,500千円
		県支出金		
地方債				
その他				
	一般財源	3,161千円	13,500千円	
期間内総事業費(H27・H28)①		73,000千円	期間外事業費(H29以降)② -	
			総事業費 (①+②) -	

				平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)	
①	名称	耐震補強済み橋梁数(累計)	活動	計画値	22	23	24
	補足	耐震補強工事が完了した橋梁数		単位	橋	橋	橋
②	名称			計画値			
	補足			単位			
③	名称			計画値			
	補足			単位			
④	名称			計画値			
	補足			単位			

事務事業評価シート

H27(主要事業)

①基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19089	橋梁耐震化補強事業	室名	維持修繕室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財	会計 01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	務	款 08:土木費
施策体系	施策の方向	03:道路の安全性と防災機能の向上	科	項 02:道路橋梁費
	戦略プロジェクト	01:まち守りプロジェクト	目	目 07:橋梁整備費

②目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、15m以上の市が管理する橋梁を対象に耐震補強を行い、市民の安心・安全の確保に努めるものである。
概要	平成7年に発生した阪神淡路大震災後、橋梁の耐震構造の見直しが行われたことに伴い、平成16年から緊急輸送道路、跨線橋、跨道橋の橋梁を対象に耐震補強工事を進めてきた。今後は東海、東南海及び南海地震が発生すると予測されていることから、平成23年度に策定した橋梁耐震化補強事業計画に基づき整備を進め、市民の安心・安全を確保する。	

		27年度	28年度
①	名称	耐震補強済み橋梁数(累計)	計画値 22
	補足	耐震補強工事が完了した橋梁数	実績値 22
		単位	橋
②	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
③	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
④	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	

年度計画				年度実績				
④事業の計画・実績	・耐震設計 三寺橋・川合椋川橋				・耐震設計 三寺橋・川合椋川橋 ・耐震工事 光於堂橋(H26より繰越)			
	事業費	事業費	計画額	予算額	決算額	総人件費 ①	1,517	平均給与額×③
		国庫支出金	11,000	8,027	8,027	一般職員人件費 ②	1,517	
		県支出金		0		所要人員 ③	0.20	
		地方債		0		臨時職員人件費 ④	0	
		その他		0		⑤		
		一般財源	9,000	6,567	6,567	受益者負担額		
		再掲	翌年度への繰越額			受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
	総人件費			①	1,517			
	総コスト			⑥	16,111			

⑤事業の評価	【事業の成果】 当該年度は設計業務委託のみであったので、翌年度以降の工事発注に備え河川協議が円滑に進むよう事前協議を行った。 また、繰越工事である光於堂橋については計画どおり完成が図れた。	総合判定 <b>A</b> 順調に進んだ
	【反省点・課題】 今後も河川に渡架している橋梁修繕工事の実施には渇水期時期の制約があるので、迅速な工事発注に努めていきたい。	
	【改善の方向性】 河川に渡架している橋梁については、河川管理者から渇水期時期の工事の制約を受けるので9月発注を目途に11月から工事が行えるよう準備をしていきたい。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 適切
最終評価確認者: 維持修繕室長 松尾敏		